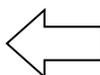


テーマ **学悠館で強みを磨き、無限の可能性と輝く未来を創造する。**

本年度の目指す生徒の姿
 ○夢や希望を抱いて未来を描き、その実現にチャレンジする生徒
 ○自分の能力に気づき、主体的・自律的な学びに真摯に取り組む生徒
 ○多様な価値観を尊重して他者と協同し、共に成長する生徒



取組の視点
 ○よりよく生きるための基盤となる健やかな心と身体を育てる。
 ○生徒の強みや可能性を引き出し、主体的・自律的な行動につなげる。
 ○仲間との信頼関係を築き、協力できる豊かな感性を育てる。
 ○選択と集中を意識して、効率的な教育活動を進める。

努力点	学校自己評価				学校関係者評価
	本年度の具体的方策	評価指標	評価結果	次年度以降への改善策	
安全・安心な 学校生活の提供	アンケートや巡回指導での生徒観察と声かけを実施し、生徒との関係構築を図りながら問題行動等の未然防止を図る。	生徒アンケートの安全・安心な学校生活に関する項目の評価が、昨年度より上がったA、昨年度と同程度であったB、下がったC [昨年度:4件法 2.97]			
	検温・消毒・校内美化の方法を工夫することにより、生徒個々の責任ある行動を促し、感染症対策に対する意識を高める。	アンケートで感染症対策に関する肯定的評価の割合が、増加A、変化せずB、減少C [昨年度:43.0%]			
主体的・対話的 な深い学びの研 究と実践	新学習指導要領への移行に向けて、実践的な教員研修等を通して、評価の客観性を担保する仕組みを整理し、学習評価に関する知見を深め、共有する。	評価の客観性を担保する仕組みを整理し、評価に関する知見の深化・共有を進めたA、仕組みの整理と知見の共有のいずれかを進めたB、どちらも進まなかったC			
	生徒の自己指導能力を高め、学びに向かう態度の育成を図ることなどにより、授業の出席率の向上を目指す。	授業出席率8割超の生徒の割合が、例年よりも高いA、例年並みB、例年よりも低いC [過去3年間平均46.6%]			
キャリア発達・ 進路実現を促す 活動	履修の手引き(新旧教育課程合冊版)及び科目配置表(移行期間版)を作成し、生徒の進路希望に応じた履修指導の充実を図る。	履修指導に関する生徒アンケートを実施し、進路を意識した履修計画が作成できたという生徒の割合が、60%以上A、60%未満50%以上B、50%未満C [昨年度:87.6%]			
	「総合的な探究・学習の時間」の効果的活用、「キャリアパスポート」等への取り組み、外部リソースの活用などを通して、生徒の主体的なキャリア発達・進路実現をサポートする。	進路未定者の割合が、卒業者の12%以下A、12%超18%未満B、18%以上C [過去5年間の平均14.9%]			
開かれた学校、地 域との連携・協働	『学校案内』の作成やHPの更新を通して、地域の方々や受検希望者に向けて学悠館の魅力や強みを情報発信する。	学悠館の魅力や強みを意識した『学校案内』の作成やHPの更新が、できたA、おおむねできたB、不十分であったC			
	『学悠館だより』やHP等を通して、学校の状況やPTAの活動を精力的に保護者に伝える。	保護者アンケートにおいて、保護者への情報提供に関する肯定的評価の割合が、60%以上A、60%未満50%以上B、50%未満C [昨年度:91.8%]			
	インターンシップ、ジョブシャドウイング、看護体験、介護体験、寺子屋みらい、体験学習などを通して、地域との連携を推進し、生徒の協働の意識の醸成を図る。	参加者数の合計が、昨年度を上回ったA、同程度B、下回ったC [昨年度の参加者数の合計66名(ふれあい看護6名/介護体験7名/寺子屋みらい53名)]			
心身の健やかな成 長	部活動や学校行事に主体的に参加させることにより、生徒自身のさらなる心身の成長に繋げる。	生徒アンケートを実施し、部活動や学校行事において自分の心身の成長が十分図れたと答えた生徒の割合が、60%以上A、60%未満50%以上B、50%未満C [昨年度:87.8%]			
	毎月発行の『ほけんだより』や各種配布物・掲示物を通して保健指導を行い、生徒の健康に関する意識の高揚を図る。	生徒アンケートを実施し、健康に留意したと答えた生徒の割合が、70%以上A、70%未満50%以上B、50%未満C [昨年度:79.0%]			
豊かな人間性・社 会性の育成	LHRや学校行事など、多様な価値観を尊重して他者と協同する機会を多く設定し、良好な人間関係が構築できるように導く。	生徒アンケートを実施し、協同的な活動を通して豊かな人間性が身についたと答えた生徒の割合が、60%以上A、60%未満50%以上B、50%未満C [昨年度:90.4%]			
	教員研修、生徒情報交換会、SCとの連携等を通して、個々の生徒が抱える課題について理解を深め、組織的な支援体制を強化する。	課題の解決に向けた支援によって、組織的に支援ができた成果が上がったA、組織的に支援ができたB、不十分であったC			